

心身練磨5

令和3年7月13日 校長発行

中学生の主張大会 7/10

祝！ 金賞受賞！！

大倉望花さん

7月10日(土)に福山誠之館高校の講堂で「中学生の主張大会」が開催され、3年大倉望花さんが『コロナ禍の今を生きる』という題で堂々と発表してくれました。その結果、見事に金賞を受賞しました。おめでとうございます。本校生徒では初受賞だと思います。



<大倉さんの発表原稿>

『コロナ禍の今を生きる』

私は、「自分の言動に責任を持つこと」、そして、「今日一日を悔いのないように生きる」ことを心に銘じて生活しています。私が、このように生き方について深く考えるようになったのは、中学一年の時のある二つの出来事がきっかけでした。

一つ目は、中学一年の夏、大好きだった祖母を亡くしたことです。私は身近な人を亡くした悲しみと同時に、「死」を目の当たりにしたことで「生」に対する価値観が変わりました。

二つ目は、中学一年の三月、一斉休校になったことです。突然、当たり前前の何気ない日常が新型コロナウイルスによって一変しました。誰もが先の見えない不安や、「あの頃の日常に戻りたい。」という思いを抱えていたのではないのでしょうか。今の日常も、いつまた変わってしまうかわかりません。

そう考えると、「明日でいいや。」「また今度にしよう。」「といった考えでよいのでしょうか。与えられたチャンスを「また今度」と見送っていてよいのでしょうか。それで後悔しませんか。私は後悔したくありません。今日一日を悔いなく生きることが大切だと思います。

私は今、小学校からの目標であった生徒会長になり、この学校にしかない魅力をもてるよう取り組んでいます。私が生徒会長になって、行った取り組みの中で、特に印象に残っているのは、日頃から地域医療を支えてくださっている寺岡記念病院に感謝とエールを届けたことです。寺岡記念病院では、新型コロナウイルスの院内クラスターにより、一時診療を休止されていましたが、現在はクラスターを克服し、診療を再開されています。そこまでの道のりは、私には想像もつかないほどの職員の方々の努力があったのだと思います。

私達の学校の中には、家族が寺岡記念病院で働いている生徒や、お世話になったことのある生徒もいま

す。身近にあり、なくてはならない存在の寺岡記念病院が大変な状況の中、中学生の私達に何かできることはないか考えました。生徒会で話し合いを重ね、全校生徒一人ひとりの思いのこもったメッセージカードを作成し、生徒会執行部で届けました。

その時、私は、「一人一人の意識で必ずコロナは終息に向かうはず。共にこの困難を乗り越えましょう。」と医療従事者の方々への感謝の気持ちとエールを伝えました。そして、寺岡記念病院の代表の方から、「職員は様々な葛藤を抱えながら頑張ってきました。それも皆さんの温かい言葉で吹き飛ばしました。」と涙ぐみながら感謝の言葉をいただいた時は、思いが伝わったのだと思い、安心したのと同じ時に、大きな達成感と感動を味わったのを覚えています。

昨年は、コロナ禍で学校行事も例年通りにはいかず、特に大きな声で合唱する「合唱大会」は開催が危ぶまれました。そんな時、地域の方が、「歌えるマスク」を作ってくくださったおかげで、合唱大会も行うことができました。私たちの学校生活は地域の方に支えられていると感じました。そんな温かい地域に、少しでも恩返しのできたのではないかと思います。

また、今年の体育大会もコロナ対策をとって行いました。さまざまな制限がありましたが、私たちは、その中でも全力で楽しみ・競い・応援し合い最高の思い出を作ることができました。

コロナ禍で予測困難な時代の中、自分を見失うことなく夢や目標に向けて歩き続けていくことは、更に難しくなっていると思います。そんな「今」だからこそ、「今を大切に生きていくこと」が重要なのではないのでしょうか。私は今日も、自分の言動に責任を持ち、今日一日を悔いのないように生きていきます。